

公益財団法人 大阪コミュニティ財団 助成事業

『義務教育後の不登校・ひきこもりの若者と地域を結ぶ支援事業』

ステップⅡ

<報告書>

特定非営利活動法人 ふぉーらいふ

はじめに・・・

2018年度になって文科省が発表した不登校状態にある子どもたちの数は、相変わらず上昇傾向にある。私たちが大阪コミュニティ財団の助成事業として2年間にわたって行ってきた義務教育後の子ども若者の社会的自立に向けての活動「義務教育後の若者と地域を結ぶ支援事業」は、不登校支援を含めてその支援の在り方の糸口が見えた一方、当法人の取り組むべき新たな課題も明らかになった。

つまり、実際の義務教育後の不登校・引きこもり支援は、これからがスタートとも言える。

前回の事業でも記したが、主に不登校の子どもたちが通う当法人のフリースクールでは、「自主・自立・生活と命」という理念を持つ。子どもたちは、活動を通して事業に参加することで地域交流・社会参画の機会を得て、自己肯定感を養うプログラムを子どもとともに創ってきた。その中で感じることは、「人は人によって人になる」ということである。

人によって傷つけられた子どもたちが、信頼できる人や場に出会うことで、自分を取り戻し、「ありのままがいい！」という自己肯定感を持つことができる。するとほとんどの子どもが、次のステップを踏み、「居場所」を巣立っていく。しかし、義務教育以降の子どもたちのニーズは、更に高く、どうしたらアルバイトができるだろうか、どうしたら社会に出られるだろうかとの不安を前に立ちつくす場合がある。

そこで、「人ぐすり」（斎藤環氏）という言葉がある。その言葉を、この事業においても実感するのであった。つまり、信頼できる大人との出会い、そして、その適切な関係性の構築によって、他者や社会とつながることが少しずつ可能になった。ゆえにこの事業を遂行した意義は大きいと考える。

最後に公益財団法人大阪コミュニティ財団の助成を受けられたことが、若者たちの背中を押し、彼らの中に一定の成果が見られたと実感できたことに、心から感謝申し上げたい。

特定非営利活動法人ふぉーらいふ 中林和子

目 次

□はじめに	
□事業の主旨と運営体制	1
□コミュニティカフェ1 やさしい民法講座	2
□コミュニティカフェ2 2030SDGs	4
□コミュニティカフェ3 応急処置	6
□コミュニティカフェ・民法講座/応急処置 アンケート	8
□地域交流1 夏祭り・ハロウィン	10
□地域交流2 文化祭	11
□知的な学びプロジェクト1 水の科学博物館	13
□知的な学びプロジェクト2 あかし市民図書館	14
□知的な学びプロジェクト3 読書会	15
□料理活動	17
□社会貢献活動 共同募金	19
□座談会～一年を振り返って～	20
□終わりに	25
□謝辞	26

事業の主旨と運営体制

本事業「義務教育後の若者たちと地域を結ぶ支援事業・ステップⅡ」では、昨年度に引き続き、若者支援事業を遂行するために、地域と連携をとった。さらに地域がどのような特徴があるのかを知り、客観的な見地に立った第三者のご意見をいただく体制をとっている。(下記参照)

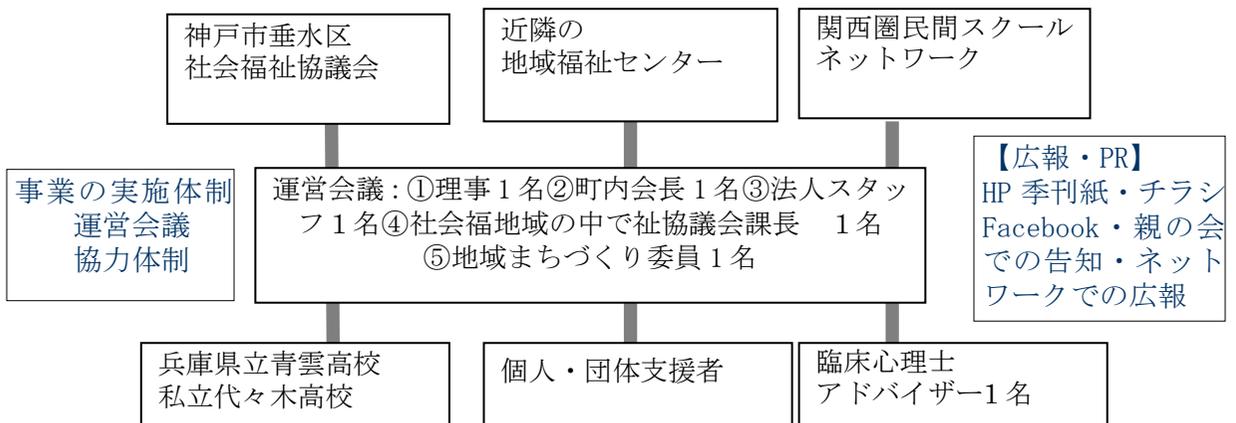
今回は、この体制に、神戸市の区民まちづくり協議会より新たに1名加わっていただくことができた。

区社会福祉協議会からの情報提供により区内の状況などを理解しながら事業を進められ、自治会会長のご理解と町内への行事参加呼びかけにご協力いただき、事業を遂行することができた。

【主な事業内容】

月	事業内容
5月	第1回運営委員会
6月	コミュニティカフェ (2回目:11月/3回目:1月)
7月	地域交流:夏祭り、10月にはハロウィン
10月	第2回運営委員会
12月	値域交流:文化祭
3月	社会貢献:共同募金

【事業遂行にあたっての体制図】



コミュニティカフェ1 やさしい民法講座

日 程：2018年6月25日（月）

場 所：特定非営利活動法人 ふおーらいふ（多目的ルーム）

【概要等】

コミュニティカフェを活用し、子どもたちが地域の人と一緒に学ぶ機会を作ろうということで、司法書士の石古暁氏をお招きして、身近にある問題について学ぶ「民法講座」を企画開催した。

学年や理解度に配慮し、子どもたちには、インターネット、SNS におけるトラブルについて学ぶ時間と、地域の方々に向けては、主に相続の問題などが考えられる時間の二部制にして行った。



「小中生対象・やさしい民法講座」



「地域の人対象・民法講座」

【プログラムの流れ】

前半に、フリースクールの子どもと高校生が講師の石古暁氏の話をお聴く。思わずポチッと押しちゃって課金されてしまったゲームの話に加えて SNS でのいじめなどを避けるために、してはいけないマナーなどもお話しいただいた。

子どもたちは、自分事として、真剣に耳を傾け、最後は、「司法書士」という仕事に興味を持ったり、数々の質問が出た。

後半は、地域のトラブルというよりは、相続の問題について、実際に起こっていることも含めて、参加者より質疑応答が活発にあった。

【成果】

- ・日頃講師を招いて話を聴く機会がない子どもたちには、興味関心のあるテーマだったので、真剣に聞くことができた。
- ・大人は、当たり前すぎるテーマだと、誰に聞いたら良いか、余計に悩むという声がある中、ひざを交えお茶を飲みながらリラックスできる場にしたので、難しい話を気軽に聴くことができ、子どもも大人も、より「民法」を身近に感じることができた。
- ・子ども向けと地域の方向けの2部構成にすることで、それぞれの年齢に合わせた講座内容・を提供できた。
- ・茶話会と一体となった講座は、参加者の緊張を和らげ、参加者から質問など発言を引き出した。
- ・ただ、参加者同士のコミュニケーションの場が不足した感があり、課題として残った。
- ・高校生が主体となって、会場の準備や地域の方へおもてなしができた。

コミュニティカフェ 2 『2030 SDGs』

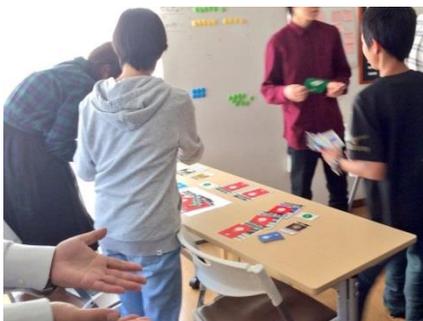
日 程：2019年11月5日（月）

場 所：特定非営利活動法人ふぉーらいふ事務所（多目的室）

【概要等】

「SDGs」とは、「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」の略称であり、国連加盟 193 か国が 2016 年～2030 年の 15 年間で達成するために掲げた目標のことを指す。

この開発目標を身近に落とし込み、持続可能な地域社会を考えるきっかけとして、青少年が主体となり、コミュニティ喫茶の一環として「2030 SDGs」というカードゲーム体験会にする公開講座を開催した。



「2030SDGs カードゲームの様子」

【プログラムの流れ】

- ・まず、2030SDGs（カードゲーム）の実施にあたり、主催の高校ステーションに所属する高校生が、SDGsについてパソコン等を用いて予習を行った。
- ・当日のレイアウトや、カードゲーム後の交流会までの流れを確認した。
- ・当日は、ファシリテーターである矢野氏の指導のもと、カードゲームが進められ、地域の人々と青少年がゲームを通じて交流した。
- ・カードゲーム後は、高校生主催の交流会が開かれ、地域の人々と共にカードゲームの感想について話し合った。
- ・後日、高校生とスタッフによるふり返りが実施された。

【成果】

- ・持続可能な地域社会を達成するための目標などを、ルールが明確で分かり易いカードゲーム体験会を通じて、青少年が地域の人々と共に考えるきっかけとなった。
- ・カフェにゲームを用いた交流の時間を設ける形式は、青少年が今後地域社会を話し合っていく上で、有効な手法であると考えられる。
- ・コミュニティ喫茶の一環として実施し、地域の人々を招待したことで、異年齢交流の場として機能し、コミュニケーションに広がり生まれた。

コミュニティカフェ 3 応急処置

日 程：2019年1月31日（木）

場 所：特定非営利活動法人ふおーらいふ事務所（多目的室）

【概要等】

フリースクール ForLife では、毎年「1.17 ひょうご安全の日メモリアルウォーク」に参加する、緊急時の避難経路を青少年自らが考え、実際に歩いてチェックするなど、日頃より防災への意識付けがなされてきた。

そして「平成30年7月豪雨（2018年6月28日～7月8日、西日本を中心に記録された大雨）」に代表される様々な自然災害を契機に、防災意識は青少年の間で益々高まりを見せていた。

このような経緯から、非常時に備えるため、高校生が主体となって『ForLife de Café 講座～わかれば安心！身近な怪我の応急手当～』という題の応急処置講座が企画・開催されることになった。



「座学・ファーストエイドについて」

【プログラムの流れ】

まず、垂水消防署に当法人スタッフと高校生が訪問し、当日の流れを講師として来ていただく救急救命士と打ち合わせた。

次に、具体の講習希望項目（捻挫の処置、止血方法、骨折時の対処など）を高校生ミーティングで思案し、まとまった内容を消防署に提出した。

当日は、講師の指導のもと、映像や実習を通じて、講座に招いた小中学生・地域の人々と共に、応急手当について学んだ。

講座後は、高校生が手作りしたクッキーとお茶を用意し、講座の感想を参加者間で共有する時間を設けた。



「ケガの応急処置」



「講習後のカフェ」

【成果】

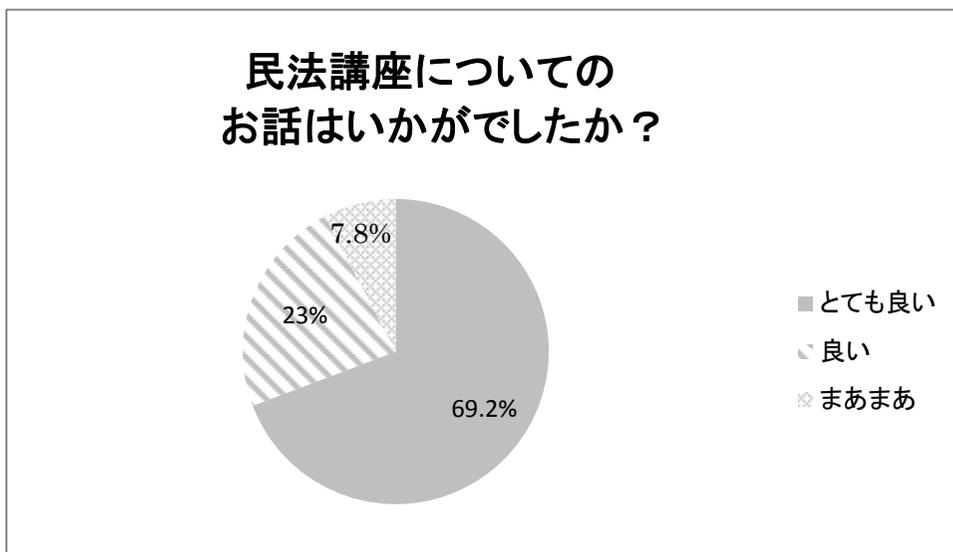
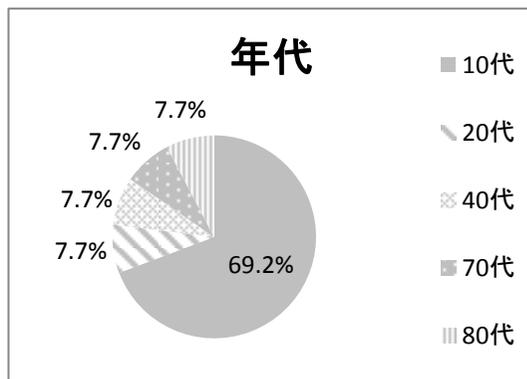
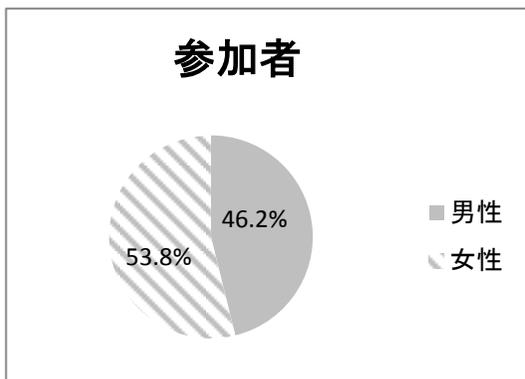
講座の打ち合わせのため、高校生自らが垂水消防署に出向き、現職の救急救命士と話し合いの場を持ったことは、近い将来社会へ羽ばたいていく彼らにとって、貴重な社会経験となったと考える。

また、打ち合わせが当法人事務所ではなく外部で行われたことは、高校生が企画者として強く自覚を持つことになったと考えられる。

普段マスクや帽子が欠かせない状態だった高校生は、打ち合わせの場でそれらを外し、講師と真正面から向き合っていたことが、それらの事を裏付けていた。

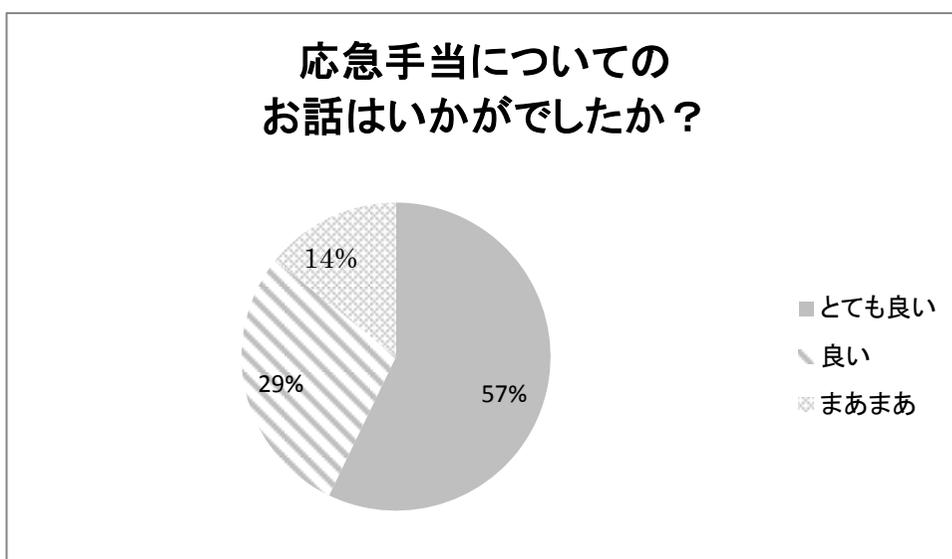
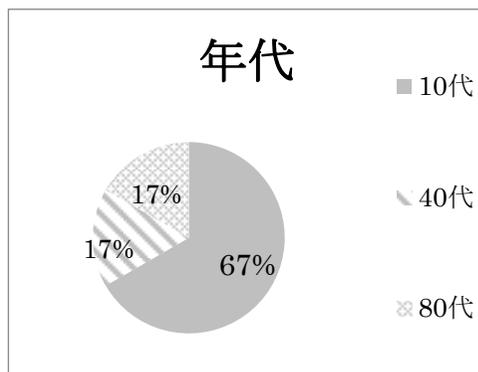
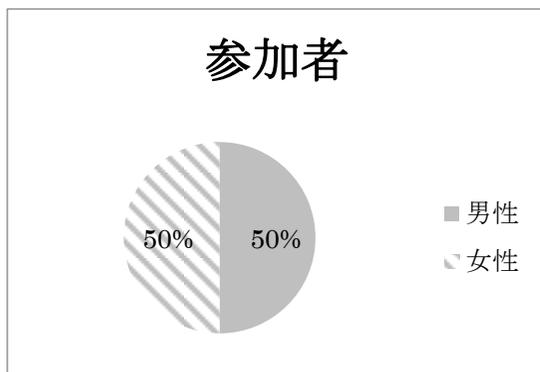
講座当日は、部屋のレイアウト決めや、用意した手作りクッキーやお茶を出すタイミングを考えるなど、高校生が細部まで講座をデザインしたことも、彼らの充実感・達成感に繋がったと言えよう。

民法講座 アンケートより



- ・ひとり身で身近な問題だとおもった（財産問題）
- ・日頃聞きたいと思ってもなかなか機会がなく、また、司法書士の方にどのように聞けばよいかわからなかったため。
- ・このような話は聞く機会がなく、改めて大事な話だと思った。
- ・将来に関わることもあり、とても興味深かった。
- ・普段知らないことをいろいろ知れた。
- ・話を聴いて、いつか携帯を持った時でも、安全に使えるそうだ。

応急処置・アンケートより



- ・ビデオの後、細やかな説明をしてくださり、ケガの手当てなどの実際の実習ができたのが良かった。
- ・もしもの時についての対処方法がすごくわかりやすかった。
- ・止血の方法がわかりやすかった。
- ・実際に三角巾を使ったりして、実際にしたのでよくわかった。

<クッキーの感想>

- ・卵を使ってないのに、優しくなめらかな味で、とてもおいしいクッキーでした。

地域交流 1 夏祭り・ハロウィン

日 程：7月14日（土）、10月27日（土）

場 所：垂水商店街「みずほ銀行」駐車場 スペース

【概要等】

垂水商店街振興組合が行う「夏まつり」「ハロウィン」の会場にて、地域の子どもたちに向けて「昔遊びコーナー」を企画・出展。ぶんぶんゴマと射的の体験ブースを運営した。



『昔遊びコーナー』を運営する様子」

【プログラムの流れ】

準備の段階で何度も話し合ったり、試作をしたりと余念なく取り組んだ。遊びの企画は高校生が主体となって企画・立案出されたものであった。コマの試作・輪ゴム鉄砲の準備については、フリースクールの小中学生の協力を得て、皆で協力し実施に至った。

【成果】

地域交流の中で、大人でなく子どもを相手に接客をする楽しさと難しさを一度に体験するとともに、イベントをするときの段取りなどを学び、身に着けることができた。

また、自団体の活動などを、地域の人に説明する場面もあり、貴重な経験ができたのではないかと考えられる。

地域交流 2 文化祭

日 程：2018年12月16日（日）

場 所：垂水勤労市民センター（多目的ホール）

【概要等】

当法人では、地域交流の一環として、対象となる青少年と、当法人が運営する小中学生のフリースクールによる文化祭「仲間展」を開催してきた。今年、20周年の記念にあたる文化祭ということで、大きな会場を借りて行うことになった。

昨年度と同様、フリースクールに在籍の、小中学生と協働し、文化祭の企画を考え、地域の方々に共にワークショップ等の機会を企画・提供した。

特筆すべきは、当法人の20周年記念の映像制作に挑戦した事であった。

企画・インタビュー・撮影・編集の過程を大学生と一緒にいき、主にフリースクールの子どもたちに、自分たちの居場所や活動に関するインタビューを行い、編集作業に従事し、無事に文化祭当日に放映することが出来た。



「当法人設立20周年記念の映像制作中」

また会場では、ゲームコーナーを企画し、小中学生に対してアイデアを出したり、模擬店では、ドリンクコーナーを設け、お客さんに飲み物を提供したりした。



「文化祭『仲間展』の様子」

「記念映像作品放映中」



【成果】

青少年が、それぞれの役割分担の下で動けるようになり、責任を持って取り組むことができていた。また、彼らが異年齢の子どもと関わることで、どのようにふるまったらよいか、各人で考え、主体的に行動する様子が見られるようになった。加えて各種企画などのコミュニケーションツールがあることで、初めての方にも笑顔で応対する光景も見られた。

知的な学びプロジェクト 1 水の科学博物館

日 程：2018年6月14日（木）

場 所：神戸市水の科学博物館

【概要等】

当法人に所属する高校生は、通信制高校に通う生徒が大半であり、学習の内容としては、レポート添削等に偏りがちであるため、今年度は「水の科学博物館」と「あかし市民図書館」を訪問するなどし、知的な学びを深めた。

本頁で「神戸市水の科学博物館」を、次頁で「あかし市民図書館」を取り上げる。



「神戸市水の科学博物館内」



「館内の実験装置体験」

【成果】

「神戸市水の科学博物館」を訪問し、神戸水道や「布引の滝(ダム)」の映像資料、その他水を利用した実験装置を通じて、身近にある水の仕組みや特性について学ぶことができた。

特に「布引の滝(ダム)」は、参加者全員が実際に訪れた経験があり、「他人事」ではなく「自分事」として、地域を巡る水について知識を得ることができた。

知的な学びプロジェクト 2 あかし市民図書館

日 程：2018年9月13日（木）

場 所：あかし市民図書館

【概要等】

「第2回読書会」の準備を兼ね、「あかし市民図書館」を訪問。

図書館が家の近所になく、普段本に触れる機会が少ない高校生に、静かな環境で心行くまで読書に浸る機会を提供した。



「あかし市民図書館までの道中」



「あかし市民図書館」

【成果】

「読書会に参加したいが、紹介できる本が近くにない」と悩む高校生の不安が解消されるとともに、後日行われた読書会がより豊かになった。

図書館内を見て回り、知的好奇心がくすぐられたためか、これまでに調べたことのない新しい分野に関する書籍を読む姿も見られた。

レポート課題に追われ、焦燥感のあった高校生が、静かな環境に身を置くことで、心を落ち着かせて読書することができていた。

知的な学びプロジェクト3 読書会

日 程：2018年5月24日（木）、2018年10月4日（木）

場 所：当法人事務所（神戸市垂水区瑞穂通）

【概要等】

青少年がそれぞれ他人に勧めたい本を持ち寄り、共有する場として、5月と10月の2度に渡って、読書会が企画された。

5月に行われた第1回目は、参加者は高校生と法人スタッフのみであったが、10月に行われた第2回目は、「不登校の小中学生に高校ステーションを知ってもらいたい」という高校生の希望で、高校ステーション見学会を兼ねたものとなり、参加者のなかには、フリースクールに通う中学生の姿も見られた。



「青少年による本の紹介」



「法人スタッフによる本の紹介」

【プログラムの流れ】

1. 紹介したい本の題名を発表する
2. なぜ紹介しようと思ったのか、理由を説明する
3. 印象に残ったことなど、感想を簡単に述べる
4. 他の参加者が感想を述べる

以上の手順で、本の紹介を一人ひとり進めていき、全員が発表し終えた時点で全ての本を机に並べて、参加者それぞれが気になった本を手に取り、読書する時間を設けた。



「読書会で紹介された本」



「紹介後の本の展示」

【成果】

青少年自身で多くの本が紹介されたことで、彼らの知的好奇心が刺激された。また、青少年がそれぞれの好みや性格を、本を介して他人に発表し、紹介後すぐにフィードバックをもらうことで、彼らが自分を見つめなおす機会となった。

発表後の読書する時間では、本を紹介した人のもとへ行き、直接質問する姿や、気に入った本を貸し借りする姿が見られるなど、本を通じて、活発なコミュニケーションが生まれた。

特に第2回読書会では、高校生やスタッフだけでなく、中学生も参加したことで、幅広い年齢間で交流があった。そして高校生は「高校ステーション見学会」として中学生を招いた側としての自覚を持ち、年下の見本となるような立ち振る舞いを意識することができた。

料理活動

日 程：2018年4月26日（木）～2019年3月14日（木）

場 所：特定非営利活動法人ふぉーらいふ事務所（神戸市垂水区瑞穂通）

【概要等】

月に1度、将来の1人暮らしを見据え、家でも手軽にできる料理を作り、食事会をおこなった。

平成30年度に作られた料理は以下の通り。

日付	料理名
2018年 4月26日	焼きそば
5月17日	ガパオライス・卵焼き
6月21日	チャーハン
7月19日	パスタ
9月20日	月見うどん
10月18日	スパゲティ（ミートソース）
11月22日	ラーメン
12月20日	豆乳鍋
2019年 1月24日	サンドイッチ
2月14日	スパゲティ（鯖の水煮）
3月14日	ちらし寿司



「料理例：ガパオライス、スパゲティ（ミートソース）」

【プログラムの流れ】

基本的には、料理に取り掛かるまでに、以下のような流れを設けた。

1. 月初めに献立を決める
2. 材料を調べる
3. 予算をたてる
4. 買い物（高校生中心）

買い物後は、スタッフがサポートをしながら、高校生が主体となり料理を行った。

料理が完成した後は、全員が同じテーブルを囲み、食事をするようにした。



「料理中の様子」



「食事の様子」

【成果】

1人暮らしを想定した簡単にできる手軽な料理を、高校生を中心に定期的におこなうことで、近い将来社会へ出ていくにあたり、自信に繋がった。

また、高校生が料理に慣れてからは、プログラムの流れの1の工程が無くなるようになり、予算に従い、買い物をしながら材料を選ぶ、という自然な流れが出来た。

さらに、料理の後、同じテーブルを囲んで同じ食事を共有することで、居場所の安心感が高まった。

社会貢献活動 共同募金

日 程：3月9日（土）

場 所：レバンテ広場（神戸市垂水区日向/垂水区役所前）

【概要等】

垂水商店街振興組合が行う、毎年恒例の季節行事「いかなご祭り」の会場で、赤い羽根共同募金街頭募金活動を行った。

【プログラムの流れ】

当日、青少年が手作りしたクッキーを販売した。

親子連れやお年寄りなど、垂水区民の皆様にごくクッキーを販売した後、共同募金の声掛けをし、200円以上ご寄付いただいた方に缶バッジを頒布した。



「街頭募金活動の様子」



「頒布した缶バッジ」

【成果】

地域福祉の一端を担う機会を得られたことで、彼らなりに赤い羽根共同募金の趣旨を理解することができた。

地域で安心して暮らすことができるよう、さまざまな地域福祉の課題解決に取り組む民間団体があるという事実について知るきっかけになった。

大勢の人前に立つのは、様々な生きづらさを抱えている青少年たちにとって勇気のいることだが、仲間たちとともに活動を行うことで、安全性を確保し、青少年の積極性を引き出すことができた。

座談会

～一年を振り返って～

- 出席：** 松本麻紀氏（垂水区社会福祉協議会事業推進課課長）
武藤迪子氏（瑞穂・馬場通自治会長）
矢野良晃氏（垂水区まちづくり課運営委員）
高校生 M 君（通信高校生）
高校生 N 君（通信高校生）
大橋義和（特定非営利活動法人ふおーらいふ高等部担当）
- 司会：** 中林和子（特定非営利活動法人ふおーらいふ理事長）

司会) 今日は座談会という形で、皆さまと感想をシェアできたらなあと思います。6月25日の「やさしい民法講座」、11月5日の「SDGsカードゲーム」、そして1月31日におこなった「わかれば安心！身近な怪我の応急手当」と3つのコミュニティカフェについて重点的に話が出来ればなあと思います。よろしくお願いいたします。

<コミュニティカフェはおもしろい！>

- 司会)** 6月の民法講座についてですけど、それについて、高校生はどんな風に思っていますか？
- M)** 前年度のコミュニティカフェは、地域の皆さんをお招きしておしゃべりしながら、という感じやったけど、今年度はまず始めに「講座形式になったから」って言われた。
- N)** 自分も戸惑ったというか。今までのカフェと違う形だったので。
- M)** 1回目・2回目に比べると、3回目は、自分たちでやったんだ、っていう達成感があったよね。自分には行ってないけど、N君が実際に消防署に行ったりとか、消防士の人に講座でどういうことを聞きたい

のかを考えたりとか。そういうところで達成感があったかな。
N) 消防署では緊張しました。講座自体は良かったと思う。
武藤) (3回のコミュニティカフェの中では) SDGs カードゲームが楽し
かったみたいよ。Mさん(友人)なんかは麻雀なさってたし。わたし
はゲームはあかんかったけど、ああいうのは良いかなあ、って。

<こちらから出かけるコミュニティもある>

武藤) それから来る人も私が宣伝したけど、最初は珍しさで来てくださ
った方が多かったけど、その後は、忙しいから、とかの理由で来てく
れなかったり。

応急手当なんかは、ふれまちの方でいつもやってる。今年は消防署
の方から音楽隊が来てオープニングを演奏して貰ったら、ものすご
く好評で、音楽隊だけ聴いて帰るおじいさんやおばあさんがいたり
して。

その運動会の応急手当講座で驚いたのは、小さい子に「縛って」と
言っても、縛れない。私たちが子どものころは、ボタンやら何やら
が無いもんだから、縛る方法なんてのは当たり前で家庭で身につ
てた。そういうのを見ると、当然できているようなことが出来てい
ないんだなあ、って思った。こういうのは最近ではいつ教わって、
覚えていくんだろう？って、その時に疑問に思いましたね。

司会) ふれまちでもこういう応急手当をしている、という話をされていま
したが、講師の方をお呼びするのも有りだけど、そういう場に逆に
こちらから出て行って、私たちの引き出しを増やすというか、そう
いうのも大事かもしれませんよね。

近々、地域であじさい祭やさくらんぼ祭なんかがありますね。

武藤) そういった行事を経験してみて、後にここバージョンのものを企画
司会) していく、というのも考えられますかしらねえ。

<手ごたえのあるカフェの形とは?>

司会) 今年度のコミュニティカフェは、講座形式でした。ただやっぱり、

応急手当講座については、消防署に行って、応急手当の準備を整えて、クッキーを焼いて…というように、自分で作り上げるという体験があると、達成感というか、随分違うよね。

この3つのコミュニティカフェはフリースクールの子にも声をかけたじゃないですか？それはどうだった？

M) 地域交流をするというのが当初の目的だったわけだから、小中学生もおるほうが、目的としては合ってるんじゃないかなと思うけど。

＜一人暮らしに備えた？簡単料理＞

司会) あともう1つ、年間を通じて料理を定期的に出来たっていうのが良かったね。こういう料理のメニューっていうのはどうやって決めるの？

M) その時々。食べたいものとか、作ってみたいものが採用されていった。

N) 今年は、手軽な料理、っていうようなテーマがあって。

大橋) あと、1人暮らしでも出来る料理を、っていうことを考えてたよね。

M) ややこしい面倒な料理ではなかったなあ。

大橋) 最初の焼きそばやガパオライスも、みんなの提案だったよね。ガパオライスはN君が提案して、その時卵焼きも一緒に作ろうって言ったのがM君だった？

M) ガパオに目玉焼き乗せたんだけど、卵が余ってたから、卵焼き作ろうぜ、ってなって。

武藤) こう見ると炭水化物ばかりやね。(一同笑)

大橋) 自然とこうなっちゃったね。

M) 若い男子しかおらんから。あと、麺とかは安いし、作りやすいし。夏休み以降なんかは、フードドライブで頂いた食材をどう使うか？

大橋) を考えて、夏やすみ明けて最初の「月見うどん」なんかは、正にそれだったね。

M) うどんの麺貰ったから、それ使おう、ってなって。

<SDGs カードゲームのおもしろさ>

司会) SDGs カードゲームの話だけだと、参加者にとって内容は分かったと思う？

M) どこまで彼ら（小・中生）が理解してたかは分からないけど。

武藤) 私は分からなかったわ。言われた通りやっただけやから。

M) 楽しくやることは出来たと思うよ。

N) アンケートにも書いてありましたけど、お年寄りの方々は理解できてなかったですね。

M) 多分、今の若い奴はゲームとかよくやるから、そこら辺、臨機応変に出来て、頭に入っていきやすいんやと思う。それで差ができたのかなあ。多分、ゲームと言わずに、話の流れだけ聞いてたら、「わかんない」って言って投げ出す奴らも多かったと思う。カードゲームだから興味を持って出来たというのもあると思う。

矢野) この間、中学校で初めてさせていただいたんですけど、それはそれで面白かったのですが、このコミュニティ喫茶でやったときの面白さというのは、やっぱり異年齢の方が参加しているというのがありますね。理解できるかどうかは脇に置いて、異年齢同士で「あれ頂戴」というようなコミュニケーションがあるのが面白かったですね。同じテーブルに急に知らない人が座って、おしゃべりしましょう、と言われても、結構ドキドキするじゃないですか？ だけどああいうカードといったものがあると、それを通じて会話が出来るといって、その良さはあったかなあとと思います。内容が理解できる・できないは、ファシリテーターである私の責任なので。

<まとめ>

司会) 昨年度に戻っちゃうけど、以前のコミュニティカフェのアンケートの中には、「おしゃべりするだけじゃもの足りない。もっと他の人のことが知りたい」というのがあって、それで第2弾は質問を考えたよね。で、その後にはどうしようか？ ってなったときに、もっと色んな人や世界と出会ってほしい、新たな発見があれば良い、っていう

ことで、今年度は色んな人を巻き込んだ講座形式になりましたけど、全体的に今年度の活動をふり返ってどう思われますか？

松本) どれを重視するのか、テーマにするのか、なのかなあ、とお話を聞いて思いました。コミュニケーションを重視するのであれば、地域交流というのはその次であったり先であったり、というような。テーマが分散してしまうと達成感につながりにくいと感じたので、しっかりした目標があつての目的だということを意識すべきだと思いました。

司会) コミュニティカフェは来年度も続けていきたいと思いませんか？

N) 応急手当の講座では色んなことを知ることが出来たためになつたし、来年度も何回かはやっていきたいと思う。

M) 僕も続けるのが良いと思う。普段話さないような年齢の人とも話せるし、マンションとかの関係で、昔ほど近所付き合いもないし。そうになると、こういうところで会話できるっていうのは、自分らだけじゃなくて、年配の方たちにとっても良いんじゃないかな、って思うから、やって良いと思う。

司会) 今日はどうも貴重な意見交換ができて、ありがとうございました。運営委員の皆様には長きにわたってご協力いただき、心より感謝申し上げます。



「座談会の様子」

終わりに・・・

この活動を通して以下のような視点を得ることができた。

- ボランティア活動を行うことにより、地域社会の実態を知り、そこにある課題を地域の人と共に考え、行動していくことができる。
- 地域資源（地域の人）との関わりから、将来の目当てを描くことができる。
- コミュニティ喫茶などの活動から、お菓子作り・おもてなし（接客）・テーブルマナーを学ぶと同時に、物流について等社会の仕組みを体験することができる。
- 食材の選定から食の安全や環境についての関心を持ち、主体的に「生活者」として生きていくことができる。
- 料理で旬の食材を使い、食べ合わせによる効果を考え、健康について考えるきっかけを持てる。
- 地域との交流を試みることで、地域との相互理解を深め、若者を含め多世代の交流を広げることができる。

このように振り返りると、ステップⅠ・Ⅱを通して義務教育後の若者たちの自尊感情を取り戻し、社会の一員として必要とされている人材であることを彼ら自身確信できるプログラムであったかと実感している。それは最後の座談会に見られるように、コミュニティカフェに関して若者たちは、経験を積むことにより、より積極的になり、より主体的であろうとしたことである。地域の人と若者をつなぐことで、彼らは人生の先達からいろいろな生き方や知識を学ぶこともでき、将来の自分の想像を選び、描けるきっかけを持った。

また、ボランティア活動にも意識を向けることによって、地域や人の役に立つ経験を積むことができ、高校生のコミュニティ作りを通して孤立化を防ぎ、個々の役割や体験も自己肯定感やライフスキルを得て、そして社会へ繋がろうとしている。

地域社会に関心を持ち将来へ向けての進路を自ら選択していく力を養い育てることが、我々大人の役割ではないだろうか？

謝辞

公益財団法人大阪コミュニティ財団の助成事業「義務教育後の不登校・ひきこもりの若者と地域を結ぶ支援事業」は、2年間にわたり実施し、無事終了することができました。

地域の中で、生きづらさを抱えながら、息をひそめて暮らしている若者たちにとって

安心できる「居場所」の必要性は、早くから唱えられていましたが、一人でも過ごせ、ある時は仲間との絆を深めながら、自分と対峙し、「ありのままの自分でいい」と思えるスペースは、今や全国的に求められます。

いろいろな出会いや体験を通して、将来へ向けてのライフステージを描けるようになるのも、人それぞれのペースや「時」がありましよう。

その「時」のプログラムは、いつ、何をきっかけに満つるかは、わかりません。

今回、当法人のプログラムが、自分のペースに合わせて歩み出す機会となった「大阪コミュニティ財団の助成事業」は、まさに若者たちの「時」であったかと実現できたことを、大変ありがたく思います。

地域の方々のご理解とご協力もあって、自覚的に・主体的に活動の機会を得て、安心できる「高校ステーション」という場で、見違えるように成長した若者たちにエールを送るものです。

最後にこの事業に関わって下さった全ての方々に心より感謝申し上げます。

特定非営利活動法人ふおーらいふ 中林和子

公益財団法人 大阪コミュニティ財団 助成事業

「義務教育後の不登校・ひきこもりの若者と地域を結ぶ支援事業」

ステップⅡ

■発行

特定非営利活動法人 ふぉーらいふ

所在地 655-0022 兵庫県神戸市垂水区瑞穂通 7-2

電話 078-706-6186

メール forlife@hi-net.zaq.ne.jp

サイト <http://www3.to/forlife>

■運営委員および事務局

松本 麻紀 氏	垂水区社会福祉協議会事業推進課課長
武藤 迪子 氏	垂水区瑞穂・馬場自治会会長
矢野 良晃 氏	垂水区まちづくり協議会委員
中林 和子	特定非営利活動法人ふぉーらいふ理事長
大橋 義和	特定非営利活動法人ふぉーらいふ高等部
甲斐 真弓	特定非営利活動法人 ふぉーらいふ高等部

■本事業にご協力いただいた団体並びに個人

垂水区瑞穂・馬場通自治会の皆様

石子 暁 氏	石子司法書士事務所
平石 明彦氏	神戸市垂水消防署
北川 哲聖氏	流通科学大学学生
婦木 健生氏	関西学院大学学生

垂水商店街振興組合

公益財団法人 大阪コミュニティ財団 助成事業

「義務教育後の不登校・ひきこもりの若者と地域を結ぶ支援事業」

ステップⅡ <報告書>

■発行

特定非営利活動法人 ふおーらいふ

所在地 655-0022 兵庫県神戸市垂水区瑞穂通 7-2

電話 078-7060-6186

メール forlife@hi-net.zaq.ne.jp

サイト <http://www3.to/forlife>



本冊子はダウンロードできます